紙上てい談「千葉県の生活習慣病対策」

県糖尿病療養指導士・支援士制度活用へ

生活習慣病患者は年々増加傾向にあり、その中でも糖尿病は顕著である。重大な合併症の進行による医療・介護の負担増加は、社会保障費をさらに増大させ、日本の医療体制を脅かすものであると言える。こうした現状に対して、日本医師会・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会によって「日本糖尿病対策推進会議」が設立された。今回、同会議千葉県支部が実施・運営する「千葉県糖尿病療養指導士／支援士（CDE－Chiba）制度」を中心に「千葉県の生活習慣病対策」について県内の専門家が語った。

CDE－Chibaマスコットキャラクター

尿中アルブミン
血液中に流れている蛋白で最も量の多いものがアルブミンである。健常者では尿の中にはアルブミンが出てこないが、糖尿病により腎障害がはじまると出てくる。その量を測り、糖尿病腎症の程度を推測するのが尿中アルブミン測定である。

千葉県糖尿病療養指導士／支援士（CDE－Chiba）制度　一般社団法人千葉県糖尿病対策推進会議が公益社団法人千葉県医師会より委託を受けて実施している制度。医療者を中心に糖尿病の予防・治療・療養に関わるサポーターを養成、資格認定するものである。

12月14日にCDE－Chibaフェス

日　時　平成26年12月14日（日）10時～16時
会　場　千葉県医師会新会館（千葉市中央区千葉港4－1）
参加資格　CDE－Chiba資格取得者、千葉県下の糖尿病対策に関心のある医師、歯科医師、各種医療団体関係者
参加人数　200名
会　費　無料
詳細は千葉県糖尿病対策推進会議HPをご覧ください。
http://www.dmchiba.jp/

千葉県医師会会長　田畑陽一郎氏
東京女子医科大学八千代医療センター糖尿病内分泌代謝内科教授
千葉県糖尿病対策推進会議代表理事　橋本尚武氏
千葉大学医学部細胞治療内科学講座教授　横手幸太郎氏
司会　NPO生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会理事長
千葉県医師会生活習慣病対策支援委員会委員長　篠宮正樹氏

田畑陽一郎千葉県医師会会長

司会　本日は「千葉県における生活習慣病防止の取り組み―千葉県糖尿病療養指導士／支援士認定制度も含めて」という内容で、千葉県医師会会長・田畑陽一郎先生、千葉県糖尿病対策推進会議代表理事・橋本尚武先生、千葉大学医学部細胞治療内科学教授・横手幸太郎先生に、これからの千葉県の生活習慣病対策についてお話し合いいただきます。まず田畑陽一郎先生、生活習慣病対策について千葉県医師会の取り組みをご紹介ください。

田畑　生活習慣病、特に糖尿病・高脂血症・高血圧などは今後高齢者が増加する社会において大変重要な疾患です。合併症の増大や患者さん自身の苦しみの増大へと繋がりかねません。千葉県医師会として積極的に生活習慣病対策に取り組んで行きたいと思います。

第1回CDE－Chiba講義・試験＝東京女子医大八千代医療センター

司会　橋本先生、2012年から千葉県医師会と千葉県糖尿病対策推進会議代表理事・橋本尚武千葉県糖尿病対策推進会議代表理事

積極的に対策に取り組む　田畑

司会　ありがとうございました。横手先生、大学の先生から見て、このような取り組みに関するご意見をお願いいたします。

横手　私どもは糖尿病の成因や治療について幅広く臨床および研究をしています。最近、千葉大学医学部附属病院に新しい外来棟が完成し、そのなかに糖尿病コンプリケーションセンターが開設されました。コンプリケーションとは、合併症のことですが、患者さんを苦しめる糖尿病の合併症（網膜症・腎症・神経障害・動脈硬化などなど）を制圧するため、さまざまな職種や診療科の連携による総合的な診療を実践して行く予定です。病気にならない、あるいはなっても進行させないために、県民全体の意識の向上が大切ですし、また我々は大学の医師・研究者として、患者さんの苦しみを減らす新しい手法を開発していきたいと考えています。このような見地から、大学としてもこの千葉県糖尿病療養指導士／支援士制度には大変注目しており、全面的にサポートしています。

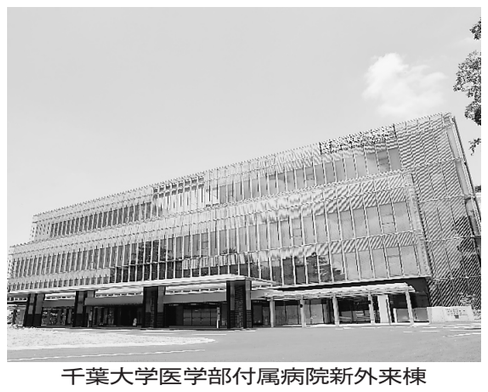
司会　それでは千葉県糖尿病療養指導士／支援士制度。略してCDE－Chibaといいますが、この人たちに、いかに力を出してもらえるか、あるいはそれぞれの個人の職場においてその能力を発揮していただくかについてご意見をください。

田畑　千葉県医師会としても、せっかく熱意があって千葉県糖尿病療養指導士／支援士の資格をとった方に、さらに勉強していただく機会を設けます。2014年秋には千葉県医師会新会館が完成します。その中には地域医療対策支援コーナーもできます。ここにひろく勉強するコーナー、情報を提供するコーナーを設けたいと思っています。

横手幸太郎千葉大学医学部教授

大学も注目、全面サポート　横手

橋本　第1回と第2回の受験者は大変熱気に溢れる方たちだという実感はあります。やがては数千人規模で千葉県糖尿病療養指導士／支援士の方たちを増やしたいと考えています。田畑会長が言われるように、様々な機会をとらえて勉強していただき、千葉県における千葉県糖尿病療養指導士／支援士のグループワークというようなものも進めて、レベルアップにつなげたいと考えています。CDE－Chibaフェスティバルを本年12月14日に千葉県医師会館で開催します。



千葉大学医学部付属病院新外来棟

千葉県医師会新会館（完成予想図）

篠宮正樹氏

横手　CDE－Chibaが、どのような役割を担い、それぞれの職場でどのように力を発揮してもらうかを考えていくことも重要であり、千葉県糖尿病対策推進会議において是非検討をお願いしたいと存じます。またこの制度の有効性を検証していく必要もあるでしょう。CDE－Chibaの活動を通して、糖尿病の医療連携が活発になり、その結果として、糖尿病を原因とする失明が減り、人工透析の導入が減り、足を切断する患者さんが減り、それを科学的に立証することができれば嬉しいですね。CDE－Chibaのいる医院には大学からの患者さん紹介もスムーズになるでしょう。日本のモデルケースになることを祈念しています。

司会　生活習慣病は早期発見が大事ですが、発見された後も個人の努力で頑張らねばならない。しかしそれには困難が伴います。周囲が、そして互いが互いをサポートすることによって、このような生活習慣病にならないであるいは進めないで、すこやかに生きることが千葉県民の大きな目標になればと思います。今日は誠にありがとうございました。

2回の試験経て総勢652人　橋本

橋本　生活習慣病患者は年々増加傾向にあり、平成22年度で総医療費の約3割を占める規模（約8．8兆円）となっており、医療費の増加は個人の苦しみだけではなく、社会の活力の低下を招きます。ところが生活習慣病は全く自覚症状がありません。医療者全体が啓発活動をして、糖尿病をはじめとする生活習慣病の減少に努めることが大事です。先に千葉県糖尿病対策推進会議では、金塚東先生（千葉中央メディカルセンター糖尿病センター長）を中心に、糖尿病、中でも糖尿病腎症の診療の実態をアンケート調査しました。糖尿病腎症の合併は48％であるのに、降圧剤が使用されていても血圧が目標域（130／80未満）に達している率は4％であること、また糖尿病腎症の指標である尿中アルブミン測定があまり行われていないことなどが明らかとなり、今後の糖尿病診療の力点を明らかにした成果でした。日本糖尿病療養指導士という大変素晴らしい制度があり、実績をあげています。そこで栗林伸一先生（船橋市・三咲内科クリニック）の発案で、千葉県で通用する療養指導士／支援士制度を創設しました。医療者全体の糖尿病および生活習慣病に対する診療を強化し、患者さんを指導および支援することによって、糖尿病などの生活習慣病にならないこと、あるいはそれを発症しても進行させないことを県民全体で取り組むことに意義があります。

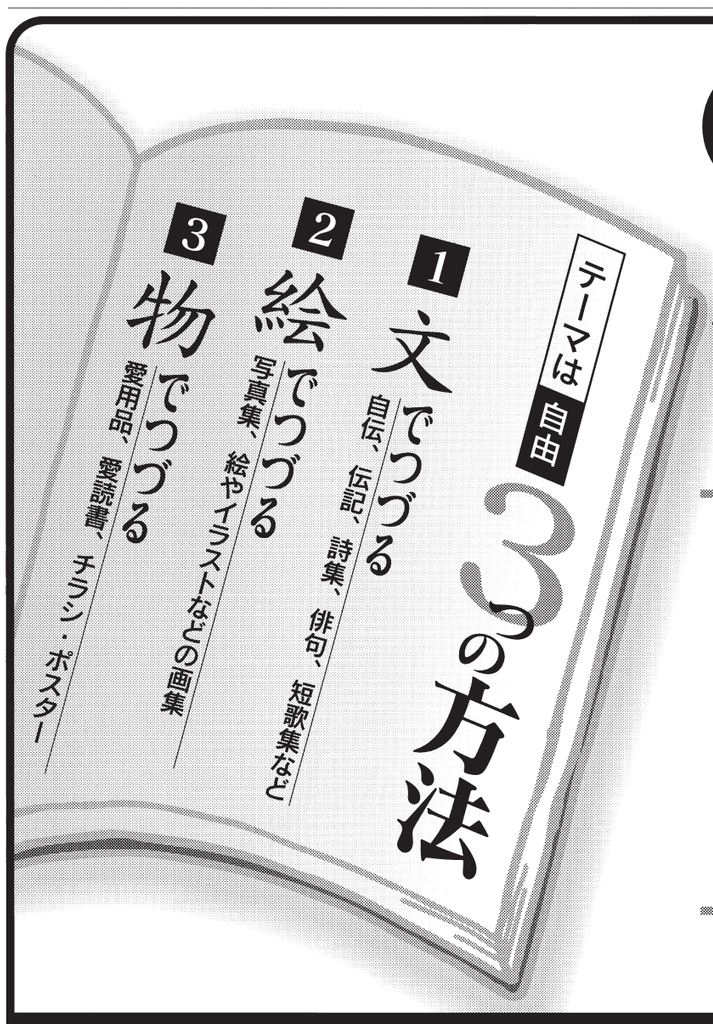
司会　CDE－Chibaについてこれまでの経過をご説明ください。

橋本　2012年11月に施行した第1回の千葉県糖尿病療養指導士／支援士認定講義と試験は275名が受験しました。主に看護師・栄養士・薬剤師そして事務の方たちも受験しました。2013年秋に第2回の講義と試験をおこない、現在CDE－Chibaは総勢652名になりました。この制度が今後広まり、養護教諭の先生や企業の方、ひいては患者さんにも受験することが広がって、千葉県全体で生活習慣病に取り組むという機運が盛り上がれば、素晴らしいことと考えています。

自費出版相談室を開設！

子孫や後輩への素晴らしい“贈り物”
ライフステージの広がりと生き生き人生

自費出版に関する相談を常時受け付けています。
専門のスタッフが適切なアドバイスをいたします。
＊ご来社の際は事前に電話でお申し込みください。

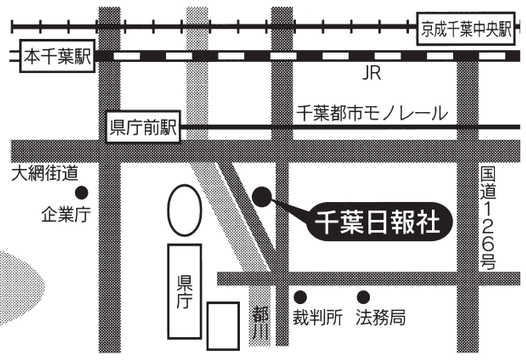


日時　月曜日～金曜日
午前10時～午後4時

場所　千葉日報社 出版部
JR本千葉駅・千葉都市モノレール県庁前駅・京成千葉中央駅下車

編集、取材、原稿執筆、校正、デザインなども経験豊かなスタッフがお手伝いします。
出版物のお見積もりを無料で作成します。

案内図



千葉日報社で自費出版した書籍は紙面とHPで紹介します。

新聞社がつくりのお手伝いをします。

自費出版のお問い合わせは　千葉日報社企画事業部　☎043（227）0066　URL http://www.chibanippo.co.jp